

令和6年度アイヌ施策推進地域計画目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	目標年度
札幌市	札幌市アイヌ施策実施プラン	令和10年度

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における目標	目標値 (A)	実績値 (B)	達成率(%) (B/A)	備考
体験交流事業参加者数	125 人/年間	113 人/年間	90%	
体験講座（市民）参加者数	240 人/年間	211 人/年間	88%	
アイヌ民族の歴史・文化等に関する講座参加者数	－	令和7年度開始	－	
札幌市アイヌ文化交流センター来館者数	45,000 人/年間	38,907 人/年間	86%	
ウポポイ・ヒリカタン周遊バスツアー参加者数	1,000 人/年間	1,071 人/年間	107.1%	
体験プログラム参加学校数	130 校/年間	170 校/年間	131%	
アイヌ高齢者の知識・経験記録映像の利用者数	50 人/年間	令和7年度公開	－	
共同利用館後継施設整備事業の進捗	基本計画の完了	基本計画の完了	完了	

アイヌ施策推進地域計画における目標	達成状況	備考
体験交流事業参加者数	○目標値の達成には至らなかったものの、コロナ禍後最多となった（R4 104 人、R5 102 人）。	
体験講座（市民）参加者数	○目標値の達成には至らなかったものの、コロナ禍後は定員の9割程度で推移している。	
アイヌ民族の歴史・文化等に関する講座参加者数	－	
札幌市アイヌ文化交流センター来館者数	○目標値の達成には至らなかったものの、展示室観覧者数はセンター開館以来最多の31,635 人となった（従前はR元の28,494 人）。	
ウポポイ・ヒリカタン周遊バスツアー参加者数	○定員を上回る応募があり、目標値を達成した。	
体験プログラム参加学校数	○来館・出前ともに過去最多を記録。目標値を大幅に上回った。	
アイヌ高齢者の知識・経験記録映像の利用者数	○公開内容調整のため令和7年度に公開。	
共同利用館後継施設整備事業の進捗	○基本計画を策定完了した。	

【札幌市アイヌ施策推進委員会委員による意見等】

- ・アイヌの若い世代への文化継承に向けた取組が必要。
- ・小学生から大学生に至るまでの幅広い層への啓発の一層の強化が求められる。

- ・高齢者世代からの聴き取りなど各事業に関して、他の市町村と連携を模索してほしい。
- ・札幌で活動する人が、自身のアイヌ文化に係る知識や技術をPRできる場がもっとあるとよいのではないかな。

2. 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

(1) アイヌ文化の保存又は継承に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
体験交流事業（調理体験4回、民具づくり2回、子ども遊び2回）を実施した。実施にあたっては、アイヌ文化の担い手を育成する機会を創出するため、講師補助を設けた。	札幌市
事業の効果	
体験交流事業（調理体験3回、民具づくり2回）アンケート回答者の93%（53人）がアイヌ民族やアイヌ文化についての理解が深まったと回答しており、理解促進につながった。	

(2) アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
制作作品の種類を増やすなど体験講座の内容を拡充し、昨年度同様全16回実施した。	札幌市
事業の効果	
市民が気軽にアイヌ民族の歴史や伝統文化に触れる機会を創出することにより、アイヌ文化についての理解・関心の促進につながった。	

(3) 観光の振興その他の産業の振興に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化交流センターの設備更新（交流ホール音響機器、展示室内アイヌ文化クイズ等）を実施したほか、庭園改修計画を策定した。 ウポ・ポイ・ピリカ外周遊バスツアーは、昨年同様に30回催行した。	札幌市
事業の効果	
設備更新により、以前センターに来館した人も新たな学びを得られる環境が充実した。また、庭園改修計画策定により、アイヌ文化ゆかりの植物の植栽に繋げることで、アイヌ文化を発信する場としての充実を図った。 ウポ・ポイ・ピリカ外周遊バスツアーアンケート回答者の96%（971人）がアイヌ民族やアイヌ文化についての理解が深まったと回答しており、理解促進につながった。	

(4) 地域内若しくは地域間の交流及び国際交流の促進に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
体験プログラムは、希望する学校全てに対応するため、予定よりも大幅に実施回数を増加させた。 アイヌ高齢者の知識・経験記録映像は、3月に1名から聞き取りを実施（逐	札幌市

語録による書面方式)。 共同利用館後継施設整備事業は、予定どおり基本計画を策定完了した。	
事業の効果	
体験プログラムの提供により、児童・生徒がアイヌの歴史や伝統文化について理解を深めることにつながった。 アイヌ高齢者の知識・経験を記録として整理することで、アイヌ民族の文化・伝承活動の活用につながることができた。 共同利用館後継施設整備事業の基本計画を策定することで、アイヌ民族が世代間での交流を通じ、アイヌ語を始めとした伝統文化に関する知識や経験を継承していくための交流・継承を行う場を引き続き確保することができた。	

3. 今後の方針等

- ・各種事業の継続的な内容の見直し・充実をはじめ、市内中心部のアイヌ文化PRコーナーやミナパの効果的な活用により、受け手・担い手ともにあらゆる世代の参加やアイヌ文化交流センター来館者の増加を目指す。
- ・アイヌ文化交流センターについて、設備更新により施設の魅力アップを目指す。
- ・以上により、「アイヌ民族の誇りが尊重されるまちの実現」に向け、より一層、アイヌ文化についての理解・関心の促進につなげる。